【補足資料】

**玉掛け作業がある場合、以降の該当する部分について**

**確認し、チェックボックス「□」にチェック「☑」する。**

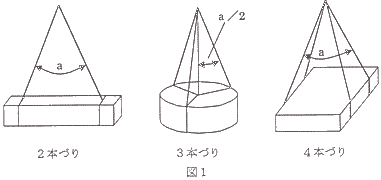
* **共通事項**

（必須）

イ　玉掛用具の選定に当たっては、必要な安全係数を確保するか又は定められた使用荷重

等の範囲内で使用する。

ロ　つり角度(図1のa)は、原則として90度以内とする。



ハ　アイボルト形のシャックルを目通しつりの通し部に使用する場合は、ワイヤロープの

アイにシャックルのアイボルトを通す。

ニ　クレーン等のフックの上面及び側面においてワイヤロープが重ならないようにする。

ホ　クレーン等の作動中は直接つり荷及び玉掛用具に触れない。

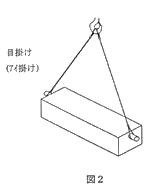
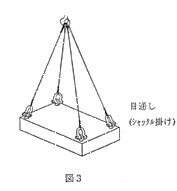
ヘ　ワイヤローブ等の玉掛用具を取り外す際には、クレーン等のフックの巻き上げによっ

て引き抜かない。

* **玉掛け用ワイヤロープを使用する場合**

　標準的な玉掛けの方法は次のとおりである。それぞれ以下の事項に留意して玉掛け作業を行う。

イ　2本2点つり、4本4点つり

2本2点つり　　　　　　4本4点つり

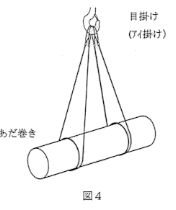
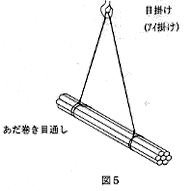
1. 2本つりの場合は、荷が回転しないようにつり金具が荷の重心位置より上部に取り

付けられていることを確認する。

1. フック部でアイの重なりがないようにし、クレーンのフックの方向に合ったアイの

掛け順によって掛ける。

ロ　2本4点あだ巻きつり、2本2点あだ巻き目通しつり

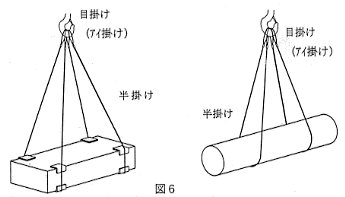
2本4点あだ巻きつり　　　　2本2点あだ巻き目通しつり

(イ) あだ巻き部で玉掛け用ワイヤローブが重ならないようにする。

（ロ）　目通し部を深しぼりする場合は、玉掛け用ワイヤロープに通常の2倍から3倍の

張力が作用するものとして、その張力に見合った玉掛用具を選定する。

ハ　2本4点半掛けつり



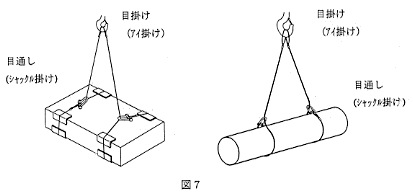
2本4点半掛けつり

つり荷の安定が悪い(運搬時の荷の揺れ等により玉掛け用ワイヤロープの掛け位置が移

動することがある)ため、つり角度は原則として60度以内とするとともに、当て物等によ

り玉掛け用ワイヤロープがずれないような措置を講じる。

ニ　2本2点目通しつり

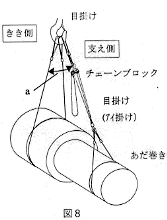


2本2点目通しつり

（イ）　アイボルト形のシャックルを使用する場合は、上記共通事項のハによる。

（ロ）　アイの圧縮止め金具に偏荷重が作用しないようなつり荷に使用する。

ホ　3点調整つり



3点調整つり

（イ）　調整器(図中のチェーンブロック)は支え側に使用する。

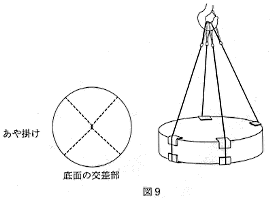
（ロ）　調整器の上、下フックには、玉掛け用ワイヤロープのアイを掛ける。

（ハ）　調整器の操作は荷重を掛けない状態で行う。

（ニ）　支え側の荷掛けがあだ巻き、目通し及び半掛けの場合は、玉掛け用ワイヤロープが

横滑りしない角度(つり角度(図のa)が60度程度以内)で行う。

ヘ　あや掛けつり



あや掛けつり

（イ）　荷の底面の中央で玉掛け用ワイヤロープを交差させる。

（ロ）　玉掛け用ワイヤロープの交差部に通常の2倍程度の張カが作用することとして

玉掛用具を選定する。

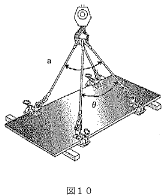
* **クランプ、ハッカーを使用する場合**

イ　製造者が定めている使用荷重及び使用範囲を厳守する。

ロ　汎用クランプを使用する場合は、つり荷の形状に適したものを少なくとも2個以上使

用する。

ハ　つり角度(図のa)は60度以内とする。



クランプを使用する場合

ニ　横つりクランプを使用する場合は、掛け巾角度(図のθ)は30度以内とする。

ホ　荷掛け時のクランブの圧縮力により、破損又は変形するおそれのあるつり荷には使用

しない。

ヘ　つり荷の表面の付着物(油、塗料等)がある場合は、よく取り除いておく。

ト　溶接又は改造されたハッカーは使用しない。

出典：玉掛け作業の安全に係るガイドラインの策定について

（基発第96号\_労働省労働基準局長\_平成12年2月24日）